

2009 年度

事業活動報告

決算報告

2009 年度活動報告

日本ハビタット協会

はじめにー協力協定の締結

2009 年 3 月、2009 年度のプロジェクトを実施するために必要な事項を規定した協定（プロジェクト協定）を、国連ハビタット総本部と日本ハビタット協会の間で締結しました。日本ハビタット協会は、この協定に基づいて国連ハビタットと緊密な協力をしながら、積極的な活動を展開しました。

国連ハビタット総本部は当協会の活動を高く評価し、かつ、今後の両者の関係をさらに深めるため、国連ハビタット総本部の最高責任者であるティバイジュカ博士と当協会の中村会長の間で、2010 年 5 月 1 日、協力協定が締結されました。この協定は、国連ハビタットが日本ハビタット協会を、日本の民間社会において国連ハビタットを代表するパートナーであると正式に位置づけました。そして、両者がさらに密接に協力すること、当協会が国連ハビタットのための募金と広報を行うこと、そのため国連ハビタットの名称・ロゴの使用を認めること、国連ハビタットのプロジェクトにつき協議し、当協会は国連ハビタットの実施する世界のプロジェクトを支援することができるなどの詳細を定めました。この協定によって、国連ハビタットと日本ハビタット協会の関係は一層強固になり、当協会の飛躍の大きなステップとなります。

以下に、国連ハビタットに高く評価された 2009 年度の活動の概要を報告します。

1. 協力事業

(1) ミャンマーのサイクロン被災地学校建設プロジェクト：

このプロジェクトはプロジェクト協定に含まれたプロジェクトの一つです。2008 年 5 月にミャンマーを襲ったサイクロン・ナグリスは多くの学校を破壊し、かろうじて残った学校建物も被災者の生活施設に使用され、1 年たっても教育の阻害が続きました。子どもたちが安心して勉強できるよう学校校舎の建設を行う必要がありました。国連ハビタット福岡本部が日本ハビタット協会の提供資金を使用して実施しました。被害の最も大きかったアエヤルワディ（イラワジ）川デルタのボガレイ、ピアポン、ダダイエにある 5 つの学校にそれぞれ 1 棟ずつ、合計 5 棟の校舎を

建設し、2009年11月にすべて完成しました。さらに、国連ハビタット福岡本部のご高配により、各新校舎には、日本政府のODAにより、雨水貯蔵タンクを付属施設として建設し、衛生施設を改善しました。このプロジェクトの直接的な恩恵を受けたのは、1061人の小中学校生徒と24人の先生でした。地元の住民が建設工事に従事し、雇用の確保、技術の習得に大きく貢献しました。

日本ハビタット協会は、このプロジェクトに向けて2008年末から2009年秋まで積極的な募金活動を行いました。音楽グループ「ワイルド・ワーズ」の加瀬邦彦様（ケネディ・ハウス社長）から高額の寄付をいただき、感謝しています。加瀬社長は12 Strings Spiritsという慈善団体を創設され、ケネディ・ハウスなどで募金活動を積極的に展開してくださいました。加瀬社長は現地の学校を訪問なさりたいという強い希望をお持ちです。同社長のスケジュールと受け入れ国側の調整をはかるべく駐日ミャンマー大使、国連ハビタット・ミャンマー事務所およびミャンマー本国政府・自治体などとの調整を続けています。

(2) エイズ孤児生活環境改善プロジェクト：

このプロジェクトもプロジェクト協定に含まれています。アフリカのビクトリア湖周辺はエイズ発症の地といわれ、親をエイズで亡くしたエイズ孤児が非常に多く、苦しい生活を強いられています。エイズ孤児が安心して生活できるよう、安全な飲料水の確保（とくに雨水貯蔵タンクの設置）、トイレなど衛生設備と居住の改善をはかるプロジェクトです。国連ハビタット総本部から当協会の提供資金によって実施したい旨の申し入れを受けて、当協会が応じたものです。タンザニアのムゲザ、ケニヤのボンドおよびウガンダのキョテラ（いずれもビクトリア湖周辺の町）にあるエイズ孤児の施設およびエイズ孤児の多い家庭を支援しました。ムゲザではエイズ孤児などの学校に容量45,000リットルの雨水貯蔵タンクを2基建設し、2基を改修しました。ボンドとキョテラでは容量15,000リットルの雨水貯蔵タンクそれぞれ10基（合計20基）を、エイズ孤児の多い家庭のために建設しました。

日本ハビタット協会は2008年末から2009年度を通じて募金活動を行いました。ハビタット・フレンズ・仙台を通じて、プロ野球チーム楽天の岩隈投手が多額の寄付をしてくださり、感謝しています。

(3) ハイチ大地震被災者救援プロジェクト：

2010年1月12日（日本時間1月13日）、カリブ海の島国ハイチの首都ポルトープランス郊外でマグニチュード7.0の大地震が発生しました。この地震による死者は国連ハビタットの発表によれば約25万人です。世界の最貧国の一つにも数えられている国での首都直下型地震であり、インフラも壊滅的な打撃を受けたため経済情勢や治安の悪化などが起き、被害は甚大です。2004年12月に発生したスマトラ沖地震/インド洋津波の死者はインドネシア、スリランカ、タイ、インド等の数カ国を合わせて22万7898人ですが、これを上回る被害が小さな島国一国で起きたこととなりますので、復興には世界的な協力が必要です。国連ハビタットは早速現地に専門家チームを派遣し、緊急支援を始めましたが、約100万人（20万家族）の住居を復興・建設しなければならない状況です。

日本ハビタット協会は、地震の直後から国連ハビタット総本部と連絡を取り、被災された方々の一刻も早い救済とまちの復興を願い、1月20日から緊急募金を開始しました。被害に遭われた方が1日も早く安心して安全な暮らしを始めることができるよう、募金をお願いしています。さっそくご寄付くださった多数の皆様にご感謝いたします。2010年1月29日に3万ドルを国連ハビタット総本部に送金し、日本ハビタット協会のすばやい行動に対して感謝が寄せられています。

(4) 国連ハビタット福岡本部支援事業

2009年12月、財団法人福岡県国際交流センターを通じ、国連ハビタットアジア太平洋本部の活動費としての支援金100万円を送金しました。

(5) 募金事業

①募金箱募金

2009年度には、前年度に引き続き成田空港、関西空港、中部空港、福岡空港、熊本空港および長崎空港に設置した募金箱を通じての募金を継続しました。このほか、有志の方々のご好意で設置した店舗、会社、ホテル、病院などの募金箱を活用して募金を推進しました。多くの募金箱にハイチ地震被災者緊急募金ステッカーが貼付してあります。

2009年度に重点的に行ったのは、空港の募金箱などに外国通貨でいただいた寄付金を日本円に交換するチャネルの拡大でした。その結果、同年度に外貨寄付金を日本円に交換して、寄付金口座に入金できた金額は前年度の2.7倍に達しました。

募金箱募金は、その回収、仕分けなどに多数のボランティアの皆様にご

協力をいただき、感謝しています。

②書き損じハガキ募金

今年度は日本航空および全日空の2社のご協力を得て、書き損じハガキ、未使用切手、未使用テレホンカードなどのご寄付をいただき、感謝しております。

2. 広報事業

(1) イベント

2009年度の最大でもっとも効果的だったのが2010年3月14日に実施したシンポジウム「国連で働くということ」でした。明石康元国連事務次長、井口典夫青山学院大学教授、廣野良吉成蹊大学名誉教授・当協会理事および星野幸代国連ハビタット福岡本部本部長補佐官・イラク担当専門官がパネリストとなり、それぞれ自分の経験に基づいて、国連で働くための能力・経験、国連の仕事の楽しさと苦労などを話されました。当初50人を予想していた参加者は最終的に146人に増え、熱心に聞き、多くの質疑応答が続きました。シンポジウムの内容は非常に有意義だったため、日本ハビタット協会のホームページに掲載し、さらに印刷物にまとめて配布しています。

その他参加したイベントは次の通りです。

AIDS文化フォーラム（横浜）

横浜国際フェスタ2009（横浜）

グローバル・フェスタ JAPAN 2009（東京）

福岡空港フォト・コンテスト2010（福岡）

(2) コイン仕分けワークショップ

募金の仕分けは当協会にとって必要であり、かつ、ボランティア活動の対象にもしやすいものです。そこで、企業が国際的社会貢献の一環として、コイン仕分けの場を設ける機会が増えています。2009年度には、三井物産（株）が社員および家族の皆様と、同社の会議室で3回にわたってコイン仕分けワークショップを開催しました。また、アクセンチュア（株）が新入社員に社会貢献の必要性を教える社員教育の一環として、3回コイン分けワークショップを開きました。ワークショップでは世界の現状、国連ハビタットの果たす役割、国際協力の重要性などに関して協会の山本専務理事が講義も行いました。

さらに、2009年度には、修学旅行中の中学生を対象に、国際社会貢献の

体験としてコイン分けワークショップを3回実施しました。

(3) 副会長・国連親善大使の活動・講演

協会副会長（国連ハビタット親善大使）は2009年度にも広く活躍をしました。2009年7月には、国連の番基文事務総長が来日した際に懇談しました。

2009年度を通じて各地で講演を依頼され、そのたびに資料を配って国連ハビタットに関する説明をしています。同年度中に合計22回の講演を行い、3,450人の聴衆が副会長から国連ハビタットの説明を聞きました。大きな広報効果があげられました。

2010年3月には、国連ハビタット総本部の招きを受けて、世界都市フォーラム（リオ・デ・ジャネイロ）に参加し、急速に進む世界の都市化と都市における格差と貧困問題の解決に関する討議に参加しました。

(4) まちづくり通信の発行

2009年4月に「まちづくり通信」Vol.15を、10月にVol.16を発行しました。発行部数はそれぞれ1万部で、会員、寄付を下さった皆様、講演会・シンポジウム・イベント参加者など広く配布しました。

(5) メディアによる活動紹介

上述のシンポジウムの記事は次の新聞に掲載されました。

- 2010年3月2日読売新聞夕刊シティライフ欄
- 2010年3月4日朝日新聞夕刊マリオン欄
- 2010年3月13日東京新聞

シンポジウム参加者が146人に達した大きな理由は新聞による集客効果であったことがアンケートで立証されました。（参加者の30%がシンポジウムの情報を新聞から得たと答えました）

3. 協会の運営

(1) 福岡支部支部長・副支部長の任命

2009年7月に、牟田慎一郎福岡支部長および末次憲二副支部長が任命されました。牟田支部長はハビタット福岡市民の会代表として、末次副支部長は国連ハビタットのためのチャリティ・コンサートの開催などすでに数々の活動を推進してきました。早速、市民の目線に立った積極的な活動を展開しています。

(2) ボランティア活動の強化

ボランティアの皆様には次のようにご協力をいただき、感謝しております。

- ・ 募金箱に集まったコインの回収（成田空港、中部空港、熊本空港）
- ・ 月 2～4 回行われたボランティア・デイに参加してコインの仕分け、ニュース・レターの発送（毎回数人～10 人参加）
- ・ ハビタット・フレンズ・仙台は仙台での募金活動に加えて国際協力に対する啓発活動を強化
- ・ 昨年度末に発足したハビタット・フレンズ・ユースは今年度を通じてコイン仕分け、企業でのコイン仕分けワークショップへの協力、シンポジウム実施のための支援などに積極的に協力していただき、感謝しています。

(3) 会員の増加

2009 年度には会員の増加に特に努力した結果、正会員は 246 人（前年度 99 人）に達し、当協会創立以来最大となりました。賛助会員も前年度より 2 社増えて 7 社となりました。

2009年度 特定非営利事業に係る収支決算書

(2009年4月1日～2010年3月31日)

特定非営利活動法人 日本ハビタット協会

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 収入の部				
1. 入会金収入				入会金なし
2. 会費収入				
正会員	800,000	738,000	62,000	個人会員246人 (前年度+147人)
賛助会員	800,000	330,000	470,000	法人会員7団体 (前年度比+2団体)
準会員			0	会費なし
3. 事業収入			0	
①アフガニスタン等開発途上国の再建復興支援事業	10,500,000	10,065,604	434,396	
②ハビタット広報事業	1,700,000	1,295,958	404,042	
4. 寄付金・補助金収入		310,580	△ 310,580	
5. 雑収入		3,967	△ 3,967	利息
当期収入合計 (A)	13,800,000	12,744,109	1,055,891	
前年度繰越金		11,332,297		
収入合計 (B)		24,076,406		
II 支出の部				
1. 事業費				
①アフガニスタン等開発途上国の再建復興支援事業	7,800,000	4,621,556	3,178,444	ハイチ大地震支援事業、国連ハビタット福岡本部支援事業
②ハビタット広報事業	1,200,000	1,845,262	△ 645,262	まちづくり通信、シンポジウム、ワークショップ
2. 管理費				
家賃	120,000	116,357	3,643	ふくおか会館内 8㎡
役員報酬	0	0	0	
事務局人件費	3,000,000	3,295,500	△ 295,500	事務局人件費
法定福利費	50,000	13,395	36,605	
通信費	400,000	458,950	△ 58,950	
消耗品費	230,000	425,586	△ 195,586	
旅費交通費	800,000	719,190	80,810	
理事会・総会運営費	20,000	18,630	1,370	
事務局運営費	100,000	328,614	△ 228,614	
その他	30,000	71,553	△ 41,553	租税公課、慶弔費
3. 予備費	50,000	100,000	△ 50,000	
当期支出合計 (C)	13,800,000	12,014,593	1,785,407	
当期収支差額 (A) - (C)		729,516		
次期繰越収支差額 (B) - (C)		12,061,813		
次期繰越金		12,061,813		

(単位：円)